

第 8 回 石狩市地域防災計画・水防計画改訂検討委員会【要点筆記】

日 時：平成 24 年 10 月 19 日（金）15：00～17：00

場 所：石狩市役所 4 階 401・402 会議室

出席者：次のとおり

委 員					
役 職	氏 名	出 欠	役 職	氏 名	出 欠
委員長	加賀屋 誠一	○	委員	熊谷 雅之	×
委員	竹口 尊	○	委員	藤山 和弘	×
委員	菊池 政幸	○	委員	藤巻 信三	×
委員	石川 國弘	○	委員	五十嵐 正勝	○
委員	東 重孝	○	委員	有馬 信	×
委員	千葉 則理	×	委員	米澤 哲	×
委員	覚知 邦夫	×	委員	小沼 陽子	×
委員	古泉 利雄	○	委員	羽田 美智代	○
委員	山田 義晴	○	委員	荒川 よし子	○
委員	酒井 志津子	○			
事務局	所 属		氏 名		
	総務部長		佐々木 隆哉		
	総務課危機管理担当課長		市園 博行		
	総務課危機管理担当主査		山口 恒心		
	総務課危機管理担当主任		笠井 剛		
	本計画改訂業務委託契約先		株式会社ドーコン 3名		

傍聴者：1名

1. 開会

2. 委員長挨拶

【加賀屋委員長】

- 先週函館で地震学会があり、地震予知はこれまで相当予算を費やしているが、正確な予知を行なうことの難しさがあらためて指摘されている。
しかし、災害は必ずやってくるのは間違いがない。災害に対する心構えや対策はまず自助、共助、公助であり、このシステムは維持していく必要がある。
- 協力をどのようにやっていくかが大事であり、広域の連携を密にすることが重要。これが絶対的というものは無いので、如何に組み合わせるかが必要。
- 気象関係の情報は気象台や開発局、道などの様々な機関が沢山の情報を持っている。その情報をどのように理解して、次の手を打つかが重要であり、情報から適切な判断をして避難等を行うことが大事である。
- 非常時の体制は、普段の状況から大きく作り替えることが想定される。災害時は役所の体制も災害対策本部に大きく変わるのと同様、自主防災組織も、きちっとした体制を作ることが重要。
- 大きな災害に対しては、ほとんど経験がないとって過言ではない。経験が無い状態で、直面した災害に対応するためには、訓練をいかに効果的に行うかが重要となる。
- 本日は、これまでのまとめとなるので、このようなことを念頭に、あらためて地域の防災を考

えたい。

3. 前回議事録の確認

(1) 前回議事の概要

【事務局：(株)ドーコン】

- ・「第6回検討委員会議事録」を配布し、議事内容や各委員の発言等についての確認を行った。

4. グループ別意見交換

(1) 情報提供

【事務局：(株)ドーコン】

① 自主防災組織

- ・ 自主防災組織の活動内容を説明

② これまでのまとめ

○ 災害時要援護者の 避難支援対策【第6回】

- ・ 市民（自助）・地域（共助）の要援護者支援の努力義務を明記する。

○ 応急対策【第7回】

- ・ 活動の限界（安全の確保）を明記した中で、活動方法を記載

○ 避難所運営【第7回】

- ・ 地域（共助）の役割と避難所内でのルールの明確化

(2) 意見交換会

- ・ 委員を以下の2つのグループ分け意見交換を行う。
- ・ サポートとして各グループに事務局から2名の要員を配置する。

【メンバー構成】

<グループ1>

石川委員、東委員、古泉委員、五十嵐委員、酒井委員

<グループ2>

竹口委員、山田委員、菊池委員、荒川委員、羽田委員

5. グループ別意見発表

(1) グループ別意見発表

<グループ1>

- ・ 自主防災組織を作る意識の少ない地域もある。形式的でも役割を割り当てて、訓練の中で経験を積んで、実質的なものに変えていくことも必要。災害の経験が豊富な人は、どこにもいないので、訓練で経験していくしかない。
- ・ 自主防災組織は、まず組織のリーダーの育成が重要。リーダーが立てた訓練計画を、地域で実施して行く中で、組織が成長する。防災リーダー講習などの開催が必要と思う。
- ・ 訓練参加者を増やすため、また意欲的な参加を促すために、自主防災組織で訓練受講者に認証状を与える等の工夫を行っている。

- ・避難所も複数の自主防災組織で運営する場所があるため、組織のレベルが揃っている必要がある。そのためには、自主防災組織同士で、お互いの情報を交換する必要がある。
- ・町内会単位ではなく、避難所単位で自主防災組織を組織する方がよい。
- ・組織のリーダーが2年～3年で交代して、活動が継続しないことが課題。自治会の役員などもあり、一人の人間が何役も兼ねると一人の負担が大きい。
- ・自主避難した場合に避難所が開いていない場合が考えられる。避難の基準と別に分かりやすい避難所の開設基準が必要。
- ・自主防災組織の年齢構成（高齢化）が課題。女性は地域の中にいる時間も長く、地域の人脈があるので、女性の力を活かすことが必要。災害対応での女性ができる仕事は多い。

<グループ2>

- ・自主防災組織はあるが、知られていない、一般の人には馴染みがない。自主防災組織に防災部長がいることぐらいしか知らない。訓練があっても参加者は少ない。役員の人ぐらいしか参加しない。これは、訓練が同じことの繰り返しで新鮮味がないことも大きい。
- ・いざというときに役立つ、機能する組織とすることが重要。輪番制の町内会役員とは異なった組織とし、人材の適材適所の活用、継続性が重要。
- ・訓練も多くの人が参加したくなる、役に立つ訓練、楽しい訓練とすることが大切。参加者もそれぞれの役割があった方が訓練に参加する。親子連れなど、さまざまな人が参加したくなる工夫が大事。
- ・訓練だけでなく、普段のコミュニケーションも大切。ラジオ体操を5月から10月までやっている町内会もあるとのこと。子ども達も参加したくなるように、昔の遊びや駄菓子のプレゼントなどさまざまな工夫している。コミュニケーションを図ることが、いざというときの力になる。
- ・町内会長会議の他、防犯、交通安全、体育のそれぞれの分野で横の繋がりはあるが防災についてはない。防災をテーマとした横の繋がりも重要。それぞれの組織のスキルアップや楽しい訓練の企画などさまざまなノウハウを得たい。モデル的な取り組みから徐々に広げていくことも大切。そのための情報提供（マニュアル）も重要。
- ・最後に、自主防災組織や避難所運営などさまざまな場面で女性の視点と役割が重要。

(2) 委員長からの総括

【加賀屋委員長】

①実のある訓練が重要

- ・自主防災組織を組織するときに、リーダーを育成していくことが重要。また有る程度町内会等のコミュニティーや組織の中で専門化、固定化していく必要がある。
- ・実際の災害の経験が少ないなかでは、やっていきながら考えていかざるを得ないので、形式的でない実のある訓練が重要である。
- ・最終的な訓練の到達点は、炊き出しを食べながら訓練の反省会をして意見交換することだと考える。

②女性の力の活用

- ・昼間は地域の中に女性が多いことなどから、女性は災害時に自主防災組織の担い手として重要な位置を占めることを意識して、組織作りをすることが必要。
- ・自主防災組織の中で女性特有の役割も必ずある。
例えば、避難所生活が長引いた場合に、共同生活で出てくる問題に対して、女性の立場から

も解決策を考えて出来るようになることが重要。

③自主防災組織の中での役割分担

- ・自主防災組織が円滑に活動するためには、普段のコミュニケーションが如何になされているかが重要である。
- ・組織づくりの中でアメリカで開発されたICS（インシデント・コマンド・システム、現場指揮システム)の様な、特定の人に負担が偏らないように、きちんと役割決めて交代しながら分担していく組織づくりが重要。行政も同様であるが、自主防災組織でも同様にきちんと役割を決めていくことが重要。

④情報収集のあり方

- ・非常時には情報が乱れ飛んで踊らされる場合もあり、信頼できる情報とはどういった情報なのかを示していくことが重要。

6. 閉会

【事務局：ドーコン】

- ・次回、第9回検討委員会は1月を予定している。

平成24年11月30日 議事録確定

石狩市地域防災計画・水防計画改訂検討委員会

委員長 加賀屋 誠一